

国語シリーズ 13

漢字と国語教育

文部省

刊 行 の 趣 旨

国語シリーズは、国語の改善と国語教育の振興に関する施策を普及徹底するために編集するものであります。

このシリーズは、国語問題編・国語教育編・国語生活編および国語教養編として、それぞれ逐次刊行する予定であります。

問題編は主として国語審議会の発表した事がらを、教育編は国語指導の方法などを、生活編は国民の言語生活に関する事がらを解説するものであり、教養編は一般の国語教養を高めることを目的とするものであります。

すでに、問題編・教育編・生活編それぞれ4冊を刊行いたしております。

なお、この本は国語教育編の5冊目として東京都教育庁指導主事倉沢栄吉氏に執筆を委嘱したものであります。

昭 和 28 年 3 月

文部省調査局国語課長 白 石 大 二

まえがき

漢字は、国語教育の問題であるよりも、国語整理の問題である。国語教育でいくらせいっぱいの努力をしてみても、児童・生徒および成人を取り囲んでいる社会が漢字について秩序がなく無関心であれば、その効果は知れたものである。

国語教育は漢字ばかりがその仕事ではない。国語教師にはほかになすべきことがたくさんある。まして、教育全体の上から見れば、漢字の問題は第一義的のことではない。それなのに、すべての教育者が漢字について、いつも気がかりになって落ち着けないでいる。不経済な話である。なんとかしなければならぬ。

なんとかするのが国語政策である。国語教育はその前に立つことはできない。国語政策のあとからついていくのである。今のところ国語教育は、国語政策のゆっくりした歩みのあとから、忠実について行って、すぐうしろぎりぎりのところにいる。前の車が進まないで、多少やきもきしながら、それでも、悪いのは自分たちではないかと反省している。

そのような国語教師に、まだこの上追い立てるように、よく反省し、よく研究し、より合理的に漢字を指導してくれと、注文をつけるのは、まことにひどい仕打ちである。けれども多くの国語教師は、熱心な良心的な一般の教師の中でもことに熱心でまじめで、内省的でさえある。この本が、そのような国語教師に少しでもお役に立つならば幸である。

昭和 28 年 2 月

倉 沢 栄 吉

目 次

ま え が き

- 1 漢字の力とは何か…………… 1
 - (1) 漢字力とは (2) 漢字を使う力 (3) 読みの力が先行する (4)読みのテスト (5) 書く力 (6) 漢字の知識
- 2 漢字の学力低下と難易……………10
 - (1) 漢字力の調査というもの (2) 難易度ということ
 - (3) 難易順について (4) 習得難易の条件
- 3 漢字学習指導の計画……………23
 - (1) 漢字力低下の対策 (2) 漢字の教育計画 (3) 学習漢字の学年配当 (4) 漢字誤記・誤読の研究
 - (5) 国語科における漢字の教育計画 (6) 新出文字と読みかえ文字
- 4 漢字の練習……………46
 - (1) 練習か生活か (2) 練習の効果 (3) 練習の生活化・生活の練習化 (4) 正しい練習学習
- 5 漢字学習指導上の注意……………57
 - (1) 学習具や環境の整備 (2) 確かめ (3) 分析理解

- (4) 全体の意味として (5) 動作化する (6) 書いて
いるときの指導

6 漢字の学習指導法のくふう.....65

- (1) 生活の中で (2) 練習を中心として (3) 遊びを
主として